

読み書きに困難のある発達障がい児のためのビジョン・トレーニングの実践

一般社団法人 発達心理ライフケア協会

〒182-0024 調布市布田 1-26-12 ダイアパレス調布 330

助成事業の概要

実施目的：視覚から得る情報は聴覚や味覚などと比べ、はるかに多いとされる。しかし、発達障がいを抱えた子ども達の中には眼球運動能力に問題がある場合があり、日常生活において困難さを示すことがある。様々な場面でつまづく事が多いことから叱責を受けやすく、自信を失い二次障害を起こすケースも少なくない。このような眼球運動能力に問題があると考えられる子どもの為に、ソフトウェアとグッズを用いて視機能のトレーニングを行う。これにより、学習面でのつまづきを始め、様々な場面での困難さを軽減し、自信をもって物事に取り組めるようになることを目的とするものである。

時期：平成 24 年 7 月～平成 25 年 3 月

内容等：十数名モニターを募り、各家庭のパソコンを使用してトレーニングを行った。モニター対象者は、視機能に困難さを抱えた発達障がい児とした。トレーニングは 1 日およそ 10 分程度。トレーニングの内容とレベルは、各モニターの過去の成績を基に自動的に設定させる。

事業の成果

目的達成度を数値で表すと、厳しい結果ではあるが 50%程度と言わざるを得ない。

達成できたこととしては、モニターを 10 名以上確保できたこと、かつ、年齢層がバランスよく揃ったことである。得られた成果としては、それぞれのモニターがどの課題に困難さがあるのか

が、ある程度把握できたことである。加えて、モニターの保護者が、子どもの特性について、より具体的に知るきっかけとなったことである。また、直接的な成果とは言えないが、トレーニングを通して集中して取り組む姿勢を、少なからず身に付けたモニターが数名いたということである。

課題としては、まず第 1 に日々継続して行うことが難しかったことである。この理由としては、発達障がいの特性が大きく関与している。1 つは、興味がある時は集中的にトレーニングできるが、一旦興味がなくなると、再び行うまでに時間がかかるということである。2 つ目は、できないことに対する嫌悪感がとても強く、不正解が続くとできなくなるということである。

第 2 に、視機能が向上したかどうかのデータを得るまでに至らなかったということである。これは、第 1 に挙げた理由の他に、実施期間が短かった事も影響している。

第 3 に、パソコンとソフトの互換性の問題である。2 名の方から「ソフトをインストールしてからパソコンに不具合が生じた」「ソフトが上手く起動しない」という報告を受けた。これについては、ソフトの開発者に報告し改善を促した。

今後、トレーニングを行うに当たっては、やはり、家庭・当会・ソフト開発者の連携が最重要課題であると考えられる。

今回参加したモニターからは、「一定期間トレーニングができ、本人にとってよかったと思う。これからも続けてやっていきたい。」「トレーニングは習慣化が必要になると思うが、特に親子で行う時にはタイミングが重要だと思った。」「特に

線をたどる課題が難しかった。もう少し意識をしてトレーニングに臨むべきだった。」などの感想をいただいた。

をとり、今後のソフト開発にも貢献できるよう体制を整えていく。

■ 成果の広報、公表

本事業を行うにあたり、広報の為にチラシを作成し、調布市内の各所（福祉施設、地域センターなど）に配布すると共に、広報誌やホームページに内容を掲載した。また、会員にも協力を仰ぎ、モニターとなってくださる方を募った。よって、事業の成果についても、開始当初に行った方法で成果を報告する予定である。最終的な成果の報告は、5月の総会後に発行予定の第6号広報誌に掲載する形で行う。広報誌は、これまで5号発行し、各号約200部を、先に挙げた調布市内の各所へ配布しているが、今回は300部の発行を目指している。これには、正会員・賛助会員などへの郵送も含まれる。成果を広報する為の用紙やインクは、既に用意が整っている。第6号の広報誌発行に併せて、ホームページへもトレーニングの成果について掲載する。これらに加え、調布市にて今年度から開始される発達障害者支援事業の場でも、本事業の取り組みを公表し、今後の支援事業に活かせるよう働きかける。

■ 今後の展開

今回の成果と課題を基に、トレーニングの仕方を再構築し環境の整備を行う。ソフトも改良を重ね新しいものが開発されているので、最新のソフトを使用しトレーニングを行う。また、今後は大人にもトレーニングを行い、成果が得られるかどうかのデータを取りたいと考えている。そして、トレーニングの成果が実証されれば、読み書きに困難のある方々の支援を、より具体的かつ的確に進めることが可能となる。ソフト開発者とも連携